における Ga シンチの有用性を，近年この目的でよく使用されるX線 CT と比較して検討する．

対象：手術により病理所見の得られた原発性肺癌 47 例で，男性 35 例，女性 12 例である．年齢は 46 歳から 82 歳の平均 65.4±8.8 歳である．

結果と考察：縦隔リンパ節転移陽性 (n2) 群 9 例中 5 例 (56%) が CT で検出された．しかし Ga シンチでは 7 例中 2 例 (29%) が検出されたのみで，しかもすべて CT で検出された症例であった．特に腺癌では n2 3 例中 1 例も検出されなかった．また Ga シンチでは偽陽性が 25 例中 3 例 (12%) に見られたが，CT では見られなかった．以上より CT が利用可能な施設では，Ga シンチの肺癌 staging における意義は少ないと考えられる．

12. IMP による小児てんかんの SPECT 像の臨床的有用性の検討

瀧　邦康　関　宏恭　瀬戸　光
二谷　立介　亀井　哲也　柿下　正雄
（富山医薬大・放）
小西　徹　（同・小児）

小児てんかん患者のX線 CT 像と SPECT 像の臨床的有用性の比較検討を試みた．方法は，IMP を 3 mCi 静注し，その投与中に全例脳波を測定した．対象は，1 歳から 16 歳 (平均 9.5 歳) 22 人である．

X線 CT 像の陽性率は 3/22 (14%) と低値であったが，IMP-SPECT 像の陽性率は 17/22 (77%) と高値を示した．しかし，IMP と脳波の部位診断との比較では，一致した例は 4 人，一致しない例は 13 人であり，今後の研究課題となるであろう．今回のわれわれの小児てんかん患者の IMP-SPECT 像の検討では，その臨床的有用性が確認された．将来，放射線医薬品として，Tc-99m-PAO あるいは Tc-99m-HM-PAO，また頭部専用 ECT 装置の普及により，精密な脳血流イメージが撮像されるようになれば，これからのてんかん患者の局在診断が容易になることが期待される．

13. てんかんに対する IMP-SPECT の意義

仙田　宏平　中条　正雄　長谷川みち代
安江　森祐　辻　明　豊吉　久代
（国立名古屋病院・放）
武田　明夫　（同・検査科脳波）

てんかんに対する IMP-SPECT 診断の意義を，脳波検査上明らかな発作波焦点を片側の側頭葉に認めた 12 症例につき，脳波所見と比較し検討した．その結果，10 症例において実直径 2 cm 以上の部位が対側同一領域と比べ 30% 以上の集積低下を示した．これら症例のうち，脳波の焦点が同一部位にあった症例は 4 例であり，そのうち 3 例は脳波検査上の棘波多発例であった．残り 4/6 症例は集積低下部位と脳波焦点部位にある程度のズレがあり，うち 2 例では他の部位に集積増加が見られた．また，他の 2/6 症例は脳波焦点部位と著しいズレがあった．脳波検査上の棘波多発例 3 症例を除くと，脳波所見と SPECT 所見との間に明らかな関連を認めなかった．

14. 閉塞性脳血管障害に対する脳 RN アンギオの意義——特に，flip-flop sign について——

仙田　宏平　岡江　俊治　中条　正雄
長谷川みち代　安江　森祐　辻　明
豊吉　久代　（国立名古屋病院・放）

閉塞性脳血管障害における脳 RN アンギオの画像ならびに時間放射能曲線所見を他検査所見と比較検討し，いわゆる flip-flop sign (FF) の診断ならびに治療効果判定上の意義を評価した．

FF を呈した 39 例全例に misery perfusion (MP) を認めた．そのうち 7 例でX線 CT 上低吸収域がなかった．MP と FF の出現頻度は前および中大脳動脈領域ならびに watershed zone 間で大差なかった．片側性の比較的小さな領域の MP にも FF が出現し，FF の出現は 33 例において時間放射能曲線上片側性のピーク時間の遅れ，ピーク高の低下，ならびに初回循環波下降脚スロープの鈍化を呈した．これら所見の経過観察は 8 症例の手術前後の脳血流の変化を判定する上に有効であった．

Presented by Medical*Online